

<川崎市下水道広報施設「ワクワクアクア」へ行ってみよう♪>

※すでに映像に入っている字幕は<>で示しています。

職員 A

ー皆さん、こんにちは。

川崎市の入江崎水処理センターにある広報施設ワクワクアクアにやってきました。

本日はこの施設の見学に行ってみたいと思います。

職員 B

ー最新技術の広報技術って聞いているけど、どんなのかな？

職員 C

ーそれでは早速、行ってみよう！

職員 A、B、C

ーおー！

職員 A

ーさあ、こちらが施設の入り口です。

本日は、こちらの施設を紹介してくださる成本さんです。

案内人

ーこんにちは。入江崎水処理センター技術担当の成本です。

本日はよろしくお願ひします。それでは早速案内をしていきますので、こちらへどうぞ。

<すごーい！こちらは何ですか？>

案内人

ーこちらは大型の LED パネルを設置してしまして、ウエルカムボードとしてお客様をおもてなししています。ここでよく、記念撮影をしていただいています。

ナレーター

ー施設の入り口のウエルカムボードは、小学生用、海外用、他都市用など来場者に合わせたメッセージでお客様をお迎えしています。

案内人

ー次の見学場所は、こちらガイダンスルームです。

こちらでは、川崎市の下水道を紹介する映像を皆さんに見ていただきます。

ですので、こちらへどうぞ。

職員 A、B、C

ーわ～、カッピーだ～

ーかわいい～

案内人

ーこちらは、川崎市の下水道のマスコットキャラクターのカップーです。

今日皆さんと一緒に施設見学を回っていきますので、よろしくお願ひいたします。

職員A、B、C

ーよろしくお願ひします。

案内人

ーでは、皆さん、そちらにお座りください。

(～♪ 映像が流れる)

ナレーター

ーガイダンスルームでは、下水処理の工程、川崎市の特徴などについて迫力ある音と映像のコンテンツを用いて紹介しています。

<次は、2階から…>

<4階へ移動して…>

案内人

ー4階では、ワクワクアクアの中で最新技術を使って下水道の広報をしている場所になっています。

ナレーター

ーここでは、最新のAR技術を使い、下水道の役割と仕組みについて多角的にテーマを設けて紹介しています。

ちなみに、ARとは、拡張現実と呼ばれるもので、タブレット端末などに搭載されたカメラが認識した現実の映像に情報を付加して表示する技術です。

案内人

ー壁に向かってタブレットをかざしてください。

職員B

ーわ～すごい！

案内人

ー見えますか？

<わ、すご～い！>

案内人

ーこちらは、水は旅人というところを紹介するコーナーです。

ナレーター

ー森林へ降り注ぐ雨は、河川へと流れ、海にたどり着き、蒸発して雲となり、再び雨として自然界を循環しています。

私たちはこの循環する水の一部を、自然の恵みとして利用し、その恩恵を受けながら生活しているのですね。

案内人

ー次は、こちらを案内したいので、皆さんこちらに来ていただけますか？

こちらは、川崎市全体の航空写真になります。タブレットをかざしてみてください。

ナレーター

ータブレットをかざすと、川崎市全域に広がる上下水道の施設が表示され、川崎市内の水循環がイメージできます。

<カッピィー、富士山見える？>

案内人

ーでは、続いてこちらへどうぞ。

こちらは、下水処理の仕組みを紹介するコーナーになっています。

ナレーター

ー入江崎水処理センターの高度処理施設における一連の処理過程のイラストに、タブレットをかざすと、処理を模式化したアニメーションが流れます。また、処理現場の360度映像も見ることができます。

案内人

ー白いカッピィーのところに立って下さい。

今度はこちらの丸のほうにタブレットを向けてください。

<わ、大きい！>

ナレーター

ーここでは、大雨の時の一時的に雨水を溜める貯留管の内部を見ることができます。

案内人

ーゆっくり、どうぞ～

ナレーター

ー下水道は水をきれいにするほかにも、水害から町を守る役割を担っています。

通路部では雨水貯留管内の360度の映像が見られ、内部を歩いているような疑似体験ができます。

案内人

ーこちらのコーナーへどうぞ。

ナレーター

ー続いて、環境対策と下水道のコーナーです。

壁のマークにタブレットをかざすと、下水道事業における環境対策についての情報をタブレットで見ることができます。

入江崎水処理センターで処理した水は、お隣にある臨港バスの洗車用としても再利用さ

れています。また、太陽光パネルも設置し、環境に配慮した施設となっています。

ナレーター

－ここでは、川崎市の下水道事業のあゆみが掲載されています。

川崎市の下水道工事は昭和6年に初めて着手されました。

下水道普及前の多摩川は、洗剤の泡だらけでしたが、今では、アユが戻ってくるほどきれいになりました。

案内人

－最後に、そちらの世界の水環境の改善に向けてというコーナーを。

こちら、タブレットをかざしてみてください。

ナレーター

－ここでは、壁面のマークにタブレットを向けると、世界の水事情などを写真やグラフなどで見ることができます。

安全な飲料水を継続的に利用できる人々の割合、基礎的な衛生施設を継続的に利用できる人々の割合は、日本はほぼ100%なのに対し、オセアニアは半分にも届いていません。

案内人

－次のコーナーに移りますのでこちらにどうぞ。タブレットをこちらに置いてください。

<4階 ART 体験コーナーはこれで終了>

<ほかには中央監視室や…>

<水質試験室や…>

<川崎水ビジネスネットワークや…>

<実際の施設も見学できます！>

<さいごに>

職員A

－ITを活用した広報事例として、川崎市のワクワクアクアを紹介しました。

みなさん、いかがでしたか？

職員B

－みなさん、ぜひ、川崎市にもいらしてください。

職員A、B、C

－ばいばい～

<おわり>